

田中康裕 / Cadis+Kaze architects

田中康裕 1961.1.31 生

1 級建築士:大臣登録 第 266341 号 (管理建築士)

1984.3 法政大学工学部建築学科卒業
1985.4 株式会社 環・設計工房
1993.4 有限会社 巧庄設計 取締役
1997.4ー 株式会社 キャデイスと風建築工房 代表取締役
2016.4ー 福岡大学工学部非常勤講師

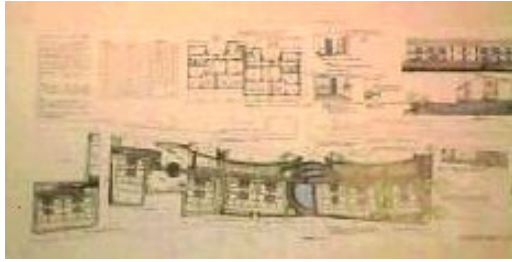
1997.4 社団法人 日本建築家協会会員
2012.4 社団法人 日本建築家協会九州支部総務委員長
2015.4ー 公益社団法人 日本建築家協会九州支部幹事長
2016.4-2017.3 公益社団法人 日本建築家協会九州支部福岡地域会地域会長
2017.4ー 公益社団法人 日本建築家協会九州支部副支部長
2019.4ー 公益社団法人 日本建築家協会九州支部副幹事長

株式会社 キャデイスと風建築工房
1 級建築士事務所:福岡県知事登録 第 1-10086 号

福岡市南区大橋 2-2-1-2F
tel:092-552-5069 fax:092-552-5079
e-mail:kaze@ro.bekkoame.ne.jp
url:<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/kaze>

受賞歴

■大牟田市お年寄りにやさしい住まいの提案（共同住宅部門） 優秀賞／田中康裕：(有) 巧庄設計



生活するお年寄りにだけでなく介護する人たちにもやさしい空間づくりをコンセプトにした提案でした。

■福岡県南部信用組合山川支店 3社指名コンペ 当選／田中康裕：(有) 巧庄設計



イベント時に使える円形の石の広場を包むように建物を配置し、一部外待合的な空間を併せ持つことで訪れやすい環境作りにつとめました。

■福岡市福浜公民館プロポーザル 当選／田中康裕：(株) キャディスと風建築工房

福浜公民館複合施設設計プロポーザル (様式-2-2)

賑わいの創造

通りで賑わう

はまっ子通り(仮)に面した計画地は、商店街の活性化にも寄与すると考えられます。

商店街とともに地区の玄関となるこの場所は、広場：イベント時には、子どもたちが商店街として、実社会の疑似体験をする場所になります。

老人いこいの家の誘導：子ども連とあふれあふれ場所として位置づけられますが、イベント時には、お年寄りの出店にもなります。

断面構成

緑化

西側の屋根、二階、三階の壁については一部緑化を行い、熱負荷の低減につとめます。

灯り

コアの上にはガラス張りの箱を設けます。これは、一階の事務室の灯りと共に地域の灯台となり、また地区のシンボルになります。

機能的な施設利用に向けた提案

協働による計画づくりの推進

- 利用者による公民館づくり体制の設立
- 公民館が地域の拠点であり続けるために、行政・関係団体・地域が連携して計画づくりを推進する「建設準備委員会」を設立します。
- 情報公開・情報収集
- 委員会での計画の進捗を「公民館設計だより」(仮称)として広報します。また、広報への意見を設計に反映させていきます。

現在の検証と将来への対応

- 旧公民館の検証・活用
- 別敷地にある旧公民館を計画時・建設時にも活用し、現在の使い勝手の検証、他施設との統合、施設運営の検討会を開催します。
- IT化への準備・検討
- 将来を見ず、ITを活用した情報受発信の仕組みを検討し、継続的な利用・更新に対応します。

はまっ子ロビーが立体ギャラリー

一階に老人いこいの家、児童等集会室を配置する事で、一階のロビーは賑わい場所になります。ここは、子どもやおじいちゃんやおばあちゃんを迎えに来るお父さんやお母さん達の井戸端ロビーとなります。

エコチューブ

エコチューブの壁を使って、階段が絵画等の展覧会の会場にもなります。

吹き抜け

一階から二階への吹き抜けは、エコチューブからの自然の風の通り道となり、また、開放的な空間となります。

設備計画

○施設の保守や管理が行いやすい設備計画

- ・設備系(配管ピット・パイプシャフト)を集約する事によりメンテナンスの効率化をはかります。
- ・機器はユニット化したもので構成し、維持管理の向上につとめます。
- ・空調、排気を事務所からの集中管理とします。
- ・トイレは自動センサーによる個別管理を行います。
- ・配管については、各系統に、バルブをもうけ、機能の拡張性、柔軟性を考えます。

○省エネ・省力化に配慮した設備

- ・建築計画に呼び、緑化やエコチューブによる省力化につとめます。

エコチューブについて

○ピット、屋根裏を利用した空調、換気

- ・共用部にダクト(エコチューブと呼ぶ)をもうけ各部屋の換気扇により建物全体の換気を行います。
- ・季節に応じて吸気方向を変えることにより、空調負荷の軽減をはかるものとなります。
- ・チューブを2分割する事により、運転を容易に操作できるものとします。

○夏

新鮮な空気をピット内を通す事により、冷められた空気を室内に取り入れ、省エネをはかると共に、常時換気することでシックハウス対策の換気もおこないます。

○冬

新鮮な空気を、屋根裏の暖かい空気を利用して室内に取り入れ、省エネをはかると共に、夏と同様に、常時換気することでシックハウス対策の換気もおこないます。

校庭と共に賑わう

学校のグラウンドに面した児童等集会室はマウンドと共に、子どもたちのたまりの場所になります。またセットバックした二階は校庭への広道を確保し、イベント時の観覧席にもなります。

マウンド

小笠原発表会などイベント時には児童等集会室はステージとなり、マウンドは観覧席に活用されます。

福浜地区のまちづくり

特性を生かした将来のコネクタとして

計画地はS40~44年に埋め立てられ形成された、30数年の新しいまちですが、また中央区の中でも高齢化が進んだ地区のひとつでもあり、地域住民の交流の仕方が大きな課題といえます。地区内には、小・中学校、大学が立地し、計画地周辺には商店が富む地形特性を生かし、はまっ子通り(仮)を軸として学・商・住の多様な交流を促していく空間や仕組みづくりを行います。

地域拠点の考え方

地域の顔として

計画地は小学校の南東にあり、学校、商店街、居住区に面し、福浜駅の入口に位置しています。ここではそれらを踏まえ、それぞれの用途に対応した調りくりを行います。それは、機能を落とさず、いびんな船(地区の住民)が楽しく安全にいきいきする施設づくりを目指します。

学校への顔

小学校のグラウンドに面する部分には、一般に児童等集客室、二階に物置のバルコニーを配置し、子どもたちが親しみやすいマウンドを設置し、立ち寄りやすい空間づくりを目指します。

まちへの顔

北側に広がる居住区に対しては、北側出入口を設け、緑化された駐車場スペースと共に立ち寄りやすい空間づくりを目指します。

はまっ子通り(仮)への顔

はまっ子通り(仮)に向けた南側側面については、内部機能の特徴を生かし、三つの顔の提案を行います。

若い物置りに

エントランス及びロビーは、地区の住民が通りから立ち寄りやすく、若い物置りにちよっと寄って休憩といった場所になります。

お年寄り子どもたちには

老人いこいの家は、はまっ子通り(仮)に向けた通りの顔になります。ここでは、縁側を介し、お年寄りが学校通りの子どもたちとふれあう場所になります。

はまっ子広場だけ

事務室前の広場は、子どもたちが軒下で遊んだり、待ち合わせの場所だったり、いろいろな用途が考えられます。

施設構成の考え方

コアを中心にして

計画地が一般的な公民館用地に比べて狭小であるため、3階建ての計画を行います。階段、EV、エコチューブ、トイレ等により構成されたコアを核とし、各室が配置されます。

コアを軸とした配置

一般的な場合の配置構成

提案する配置構成

1階：使用頻度が高く、また周辺とのつながりを考慮し、いる人な人が集い、居ることのできる老人いこいの家、児童等集客室、はまっ子ロビーを設けます。

2階：講堂、研修室、和室を配置し、研修室は可動間仕切りにより高下と連続させることで、講堂のホワイエとしての利用も可能です。

3階：目的を持って使用される学習室、地域団体系を配置し、一室での使用を可能にします。

空間イメージ

構造計画

構造上もこのコアは建物の核となります。このコアを中心にして、水平方向に、自由な平面計画を行っています。

屋外計画

交差点に面したはまっ子広場は、外部の障壁ロビーとして活用されます。小学校グラウンド側は、マウンドを整備する事により、子どもたちの遊技通路として活用されます。駐車場は、通りが少ない道路側に配置し、緑化を行います。検診等の大型車両については、学校との連携も考慮されます。

3階

緑化

- 大屋根や高層の壁面緑化を行い、空調負荷を低減。

地域団体系・学習室

- 可動間仕切り等を使って大きさを取ることで、より様々な使い方ができる。

講堂

- バルコニーと連続利用できる。
- 暖房も設置できる。

2階

緑化

- 大屋根や高層の壁面緑化を行い、空調負荷を低減。

開放的な研修室

- 小会議や講堂のホワイエとして活用。(和室と連続して和室をステップとして活用)

西側の屋外ロビー

- 登校ロビーの延長。福祉まつり等のときには学校側へ開放。

1階

老人いこいの家

- お年寄りや児童の交流の場。

はまっ子広場

- イベント広場としても活用。

児童等集客室

- 小学校からのアクセス。学校側から利用でき、児童の利用頻度を向上。

児童等集客室

- イベント時児童等集客室と連続した利用。

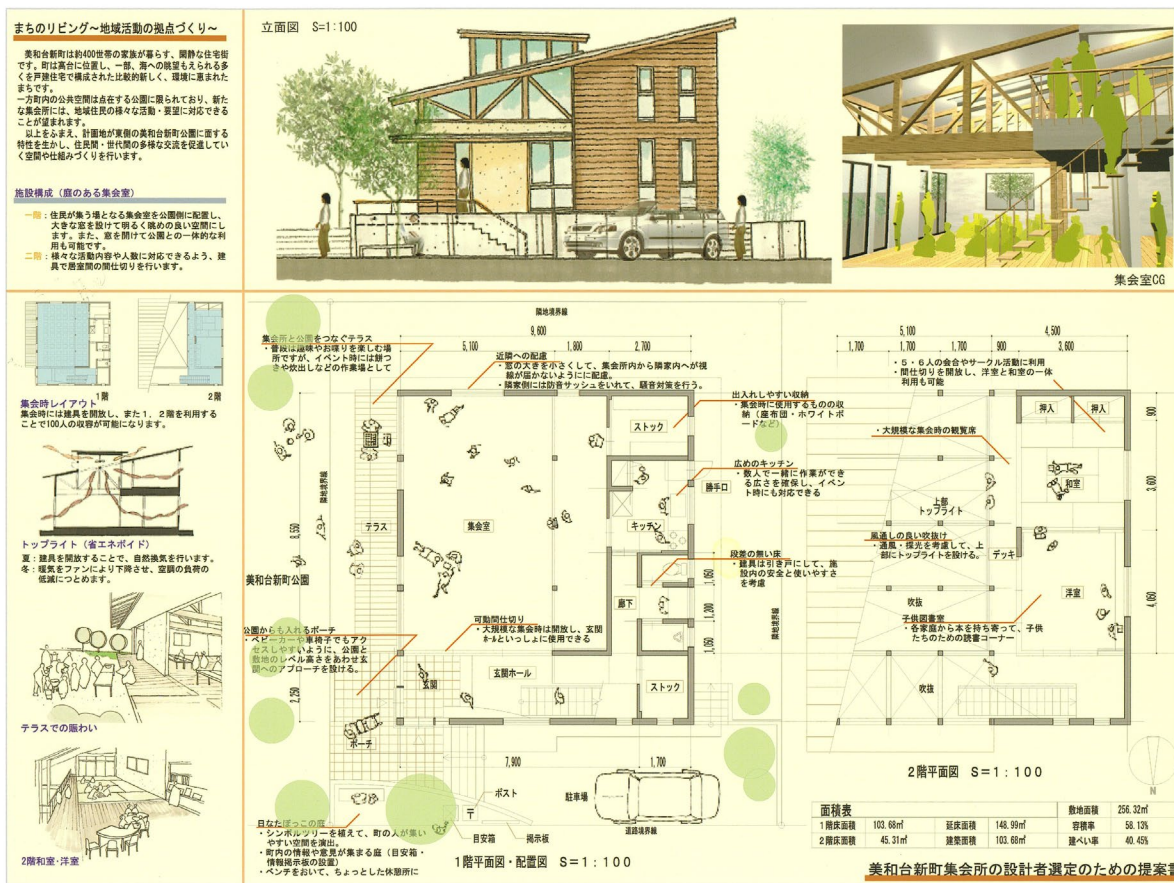
まちの灯台(事務室)

- 開放的な事務室がもたらめるあかりはまちの灯台。



12社による公開プロポーザル当選作。屋上緑化とエコチューブという、環境に配慮した計画。公民館という用途を考慮し、“地域みんなで創る公民館”をテーマに小学生、中学生、老人会、地元の人たちと、また建築を学ぶ学生と一緒に外壁に貼るタイルの絵付けを行いました。

■福岡市東区美和台新町集会所コンペ 当選／田中康裕：(株) キャディスと風建築工房



福岡市東区にある美和台新町自治会による3社指名コンペによる当選案。100人入る集会室をという条件を元に、明るい吹き抜けを介し、1、2階を同時に使用できるようにした計画です。

福岡市高取公民館プロポーザル 当選/田中康裕：(株) キャディスと風建築工房

高取公民館 公園

高取校区は、早良区内でも西新と並び、大きな住宅地です。校区内の人口も増加の傾向にあり、平成27年3月時点では、早良区内で、一番多い校区となっています。近年、高齢の集合住宅も増え、20代から40代の人口が、ほぼ半数を占めています。いわゆる子育て世代で。既存の公民館活動、サークルの中には、月2回のたがとりっこサークルや週1回の「こころちやちや」、月1回の「民謡唄いあそびサークル」などが、催されています。計画では、子どもやお年寄りやさしい施設であるのもちろんのこと、若い子育て世代の方たちにもやさしい安全な施設づくりを行い、地域住民の活動拠点となる施設の提案を行います。

高取校区には、高取公園、紅葉山公園、現代南公園の3つの街区公園と植樹公園の1つが近隣公園があります。街区公園で半径250m、近隣公園で半径500m程度に住居が利用することを対象としています。今計画では、屋上を公園とすることで、3つの街区公園の隙間を埋め、ママ世代には、ベビーカーを押しての公園遊びや、幼児との公園遊び、また子どもやお年寄りには、遊び場、憩いの場として利用できるようにします。

高取公民館・老人いこいの家設計プロポーザル

西、南側道路に面する角地である計画地の1階西側に老人いこいの家、南側に事務室、学習室、東側に講堂を計画します。各室の間に隙間を設けることで、風や光が廊下に吹き込みます。2階の南側には、地域活動室、児童作業室、北側に和室と研修室を配置しています。南側には、1階同様、隙間を設けることで、ホール・廊下の環境に寄与します。屋上については、両辺の高い建物からの遮蔽といった部分を考慮し、無難な一般的な屋上の提案ではなく、公園という機能を持たせた緑の屋上を提案します。

■意匠計画

西、南側道路に面する角地である計画地の1階西側に老人いこいの家、南側に事務室、学習室、東側に講堂を計画します。各室の間に隙間を設けることで、風や光が廊下に吹き込みます。2階の南側には、地域活動室、児童作業室、北側に和室と研修室を配置しています。南側には、1階同様、隙間を設けることで、ホール・廊下の環境に寄与します。屋上については、両辺の高い建物からの遮蔽といった部分を考慮し、無難な一般的な屋上の提案ではなく、公園という機能を持たせた緑の屋上を提案します。

■構造計画

施設のライフサイクルコスト低減のために、ここでは木造2階建ての提案を行います。校区内の人口や年齢の変化に対応できるように、オープンな構造フレームを計画し、乾式間仕切りを移動することで、それぞれの時代に対応できるようにします。外壁については、乾式（押出成型メント板）を採用することで、断熱への負担を低減し、コスト削減に努めます。また、近隣のホールデータで確認できる支持層は、10m程度の深さであるため、リサイクル可能な鋼管柱を提案します。

■設備計画

市が持つ公民館、老人いこいの家設計要件に準拠すると共に、環境負荷低減の取り組みとして、計画では、パッシブエネルギーを有効に活用し、屋上緑化や自然換気、太陽光などを取り込むことで、ランニングコストの削減に寄与します。

木場をつくる高木木（レモン、キンカン）

小山の公園（野芝、タイム、ミント）

室内植栽場（ルーバーによる日陰付）

太陽光パネル

再生によるスロープ利用（歩道橋一帯）

①災害時拠点施設として

校区内には約8,000世帯、16,500人ほどが居住しています。災害時には、この施設は小学校と共に避難場所、生活の拠点施設となります。ここでは、災害時となる避難場所の不備を解消できるように施設内の整備を行います。

※施設的安全性：耐震性+耐風圧性
※通信の確保：一般電話+IP電話
※トイレ：排水水の確保（雨水利用）
※調理設備：ガス+電気
※施設内のバリアフリー
※間仕切り：プライバシー確保

■テーマ1 施設維持管理の容易さの提案

空調、換気、設備、照明、ソーラ等の制御については、事務室にて一括管理を行います。またキッチンやトイレ、洗面などの機器については、ユニバーサルデザイン機器、手帳に対しては、安心して使用できる機器の選定を行い、人によさしい設備環境を整えます。また施設のメンテナンスや更新が容易に行えるようにマニュアルの作成を行います。マニュアルには、各使用材料の更新の時期や日々のメンテナンスの方法を記すことで、施設の利用者や管理者の維持管理により、施設を長寿命化させる仕組みを行います。

■テーマ2 ライフサイクルコストの低減について

建築においては、企画から建設、運用、解体といったライフサイクルが長期にわたるため、資源やエネルギーを大量に消費し、地球環境へ大きな負担をかけています。ここでは、循環型社会を構築した持続可能な社会を築くことに対応した施設の提案を行います。

※リサイクルコストの提案
企画設計時：長期間使用できる施設（施設長寿命化）
校区内の住民の人口や年齢の推移に対応できる施設
建設時：再生可能な材料やリサイクルできる材料の使用
運用時：省エネルギー機器の採用と可能な限りの自然エネルギーの利用
解体時：使用材料のリユース、リサイクル

高取公民館 公園

高取校区は、早良区内でも西新と並び、大きな住宅地です。校区内の人口も増加の傾向にあり、平成27年3月時点では、早良区内で、一番多い校区となっています。近年、高齢の集合住宅も増え、20代から40代の人口が、ほぼ半数を占めています。いわゆる子育て世代で。既存の公民館活動、サークルの中には、月2回のたがとりっこサークルや週1回の「こころちやちや」、月1回の「民謡唄いあそびサークル」などが、催されています。計画では、子どもやお年寄りやさしい施設であるのもちろんのこと、若い子育て世代の方たちにもやさしい安全な施設づくりを行い、地域住民の活動拠点となる施設の提案を行います。

高取公民館・老人いこいの家設計プロポーザル

西、南側道路に面する角地である計画地の1階西側に老人いこいの家、南側に事務室、学習室、東側に講堂を計画します。各室の間に隙間を設けることで、風や光が廊下に吹き込みます。2階の南側には、地域活動室、児童作業室、北側に和室と研修室を配置しています。南側には、1階同様、隙間を設けることで、ホール・廊下の環境に寄与します。屋上については、両辺の高い建物からの遮蔽といった部分を考慮し、無難な一般的な屋上の提案ではなく、公園という機能を持たせた緑の屋上を提案します。

①業務の取組体制

ここでは、高取校区が持つ特色や敷地周辺環境、条件を読み取り、計画を進めていきます。住宅地の中心に建つことや、通学路に面していること、子育て世代が多くなることなどを踏まえて、公民館、老人いこいの家づくりを積み上げていきます。

計画は設計チームから一方通行ではなく、地元の住民の方の意見も聞き、計画に反映させます。設計進捗では、校区内の住民に加え、付近の保育園、幼稚園、小中学校と協力をお願いし、今回の計画に参加してもらい体制を整えます。それに行政を含めた設計ワークショップにおいて、公民館のサロンやサークル活動が安心して行われるような施設設計のすり合わせを行います。

また、公民館、老人いこいの家建設に参加したことを地域の小学生やお年寄りの記憶に残すために、できれば、地元の高取換菓元の協力を得、記念の陶板づくりを行うことを計画します。

②設計チームの特徴

構成チームについては、各々が、建築の各分野において、プロフェッショナルであることが重要です。経験豊富な建築士、今回は、今回チームを組む建築士と共市内の新築公民館の設計実績を持ち、ワークショップの経験も豊富です。

計画は設計チームから一方通行ではなく、地元の住民の方の意見も聞き、計画に反映させます。設計進捗では、校区内の住民に加え、付近の保育園、幼稚園、小中学校と協力をお願いし、今回の計画に参加してもらい体制を整えます。それに行政を含めた設計ワークショップにおいて、公民館のサロンやサークル活動が安心して行われるような施設設計のすり合わせを行います。

また、公民館、老人いこいの家建設に参加したことを地域の小学生やお年寄りの記憶に残すために、できれば、地元の高取換菓元の協力を得、記念の陶板づくりを行うことを計画します。

③ライフサイクルコストと維持管理

計画では、建築物のライフサイクルコスト低減や長寿命化について、考慮します。長寿命化については、耐用年数の1.5倍の寿命と見直し、設計段階でライフサイクルコストを算出します。福岡市の場合、公民館設計費は、公民館の規模や設備機器に差も少ないため、計画で算出したライフサイクルコストをもとに、市内公民館の次回更新までの維持管理費用計画に利用できるようにします。また計画においては、削減するために下記のとおり努めます。

※設備機器の保守点検、屋上公園の植栽管理等のこととあり、計画では、機器の選定や機械の種類について、低コストでの管理可能な設計を提案します。定期的なメンテナンス、各材料、機器について比較検討し、低コスト可能な機器の選定を改善；改善、機械替えのコスト、計画では、躯体をオープンフレームとし、間仕切りを乾式とすることで、機械替えが容易にできる設計とします。

運用：光熱水のコスト。計画では、太陽光発電、屋上緑化による空調負荷の低減、LED照明器具やセンサーによる点検、節水の衛生器具などを採用することで、光熱水の削減に努めます。

④公園について

近況、公共建築物については、長寿命化やライフサイクルコスト削減を考慮することは、当然の設計条件となって来ています。また、地味環境、周辺環境、施設維持といった部分についても配慮を望んでいます。

今計画では、校区内にある3つの街区公園（高取公園、紅葉山公園、現代南公園）の隙間を埋める小さな公園を提案します。

その小さな公園は、公民館、老人いこいの家の上にあるため、商店街で買物済ませたママやおしゃべりの場所であったり、学校帰りの小学生の寄り道場所であったりします。また、いこいの家を利用するお年寄りの休憩や憩いの場でもあるため、この小さな公園が一つの小さなコミュニティの場ともなります。

既存の3つの街区公園が、上で木陰も少ないため、この小さな公園は、緑の公園を計画します。地味環境に野芝、木陰をつくる高木木（レモンやキンカン）といった木が深い植栽帯の樹木を計画し、タイムやミントなどの草木の植栽も行います。

⑤ライフサイクルとワークショップ

建築・構造・設備といった建築の専門的なチームをファシリテーターとする住民参加の設計ワークショップを行います。その過程を公民館設計費にて地域に配出し、参加者以外の方の意見も反映できるように努めます。

建築担当：全体を企画し、図面、模型などを使って、数案のたたき台を作成、説明し、意見を集約しまとめを行います。

構造担当：フレーム構造等を使って、地盤時における施設の耐震性をわかりやすく説明します。

設備担当：省エネを考慮した設備計画について、住民に説明を行います。

このワークショップで出てきた意見を各担当が集約し、設計に反映させていきます。

建設

建設時には、建設の一部に参加できるような仕組みを考案します。計画では、先に述べた陶板を地域のみんなで焼かせることで、施設のこへの参加を促します。ここでは、幼児から小学生、中学生、お年寄りが参加するため、みんなが先着できるように、焼付けを行う際には、ボランティアの学生の参加を募り対応します。また、屋上の小さな公園の植栽についても地域の住民によるワークショップを行い、樹木や草木の決定を行い、植栽にも参加できるように計画します。

工事の目的は、見学会を行います。そこで、電工から現場作業を確認することも、施設へ業者を持ち、竣工後も公民館の行事に参加することを促します。

見学会に参加できない地域の住民のために、公民館建設費を発行します。ここでは、見学会において、聞けなかったりしたなどについても、ききんと回答する覚悟も作ります。

運用・管理

竣工後は、施設の長寿命化を考慮し、施設の使いやすさや使用材料を記したマニュアルを作成します。マニュアルには、材料の更新の時期や日々のメンテナンスの方法を記し、利用者や管理者によって、長期に渡って、施設を維持できるように努めます。

このマニュアルは、施設を数十年に渡り維持管理を行う必要があるため、利用者や、管理者自身においても更新できるようにします。

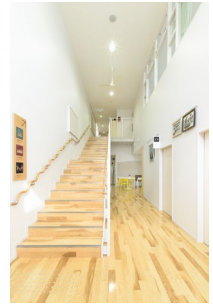
屋上の小さな公園の植栽については、建設時に地域のみんなで植栽を行ったことで、運用時には、それらの木や草木木とれだけ負責しているかなどを調査し、数十年先の建物更新まで、みんなの緑を育てていきます。

解体・処理・再生

解体時には、設計の段階でライフサイクルを考慮して使用した材料の分別処理、解体の徹底を行います。その中で、リユースやリサイクルといったこの段階での施設の取り組みを地域に伝え、より良い施設の活用を推進します。

ここでは、行政やコンサルタントと共に解体ワークショップを行います。ワークショップでは、長期に渡って改訂されたマニュアルをもとに、リユース材、リサイクル材を選定し、今後の公民館建設に役立てます。

またワークショップでは、選定したリユース材、リサイクル材が、いかに利用されていくかなどを学びます。



■飯倉中央公民館プロポーザル 当選/田中康裕：(株)キャディスと風建築工房

(様式5)

「集まる」「学ぶ」「つなぐ」

飯倉中央公民館、およびこの敷地を持つ下記の特色や周辺環境、条件を読み取り、公民館・老人いこいの家づくりを地域みんなで計画を進めています。

■業務の実施方針

飯倉中央公民館、およびこの敷地を持つ下記の特色や周辺環境、条件を読み取り、公民館・老人いこいの家づくりを地域みんなで計画を進めています。

- 木造戸建て住宅が密集している地域での計画
- 南側幅員4m、東側幅員7mの2方道路に面する計画
- 65歳以上が多くなる居住地域の計画
- 6歳未満の子供を持つ世帯割合が少ない地域での計画

計画は設計チームからの一方通行ではなく、地元の住民の方の見も聞きながら進めます。設計過程では、校区内の住民に加え、保育園、幼稚園、小中学校の協力を頂き、計画に参加してもらう体制を整えます。それに行政を含めた建設準備委員会(設計ワークショップ)において、公民館の事業活動やサークル活動が安心して行われるような施設設計のとらえ方を進めます。設計チームは、建設準備委員会において、模型や図面を使って、わかりやすく説明を行い、みんなの意見を集約していきます。

■業務の取組体制

構成チームについては、各々が、建築の各分野において、プロフェッショナルであることが重要です。

統括する担当は、今回チームを軸に構成担当と共に市内の**新設公民館の設計実績**を持ち、ワークショップの経験もあります。

また設計担当は、**公民館の実績**と共に小学校など公共建築の設計を多く経験しており、**省エネや環境に対する取り組み**についても、実際に設計経験も有しています。

また、今回の提案では、建築や図内外のサインなど、外部の専門家の協力も得て、設計業務を進めていきます。

■設計チームの特徴

A. 意匠設計

市内公民館の設計実績ととも、地域の集会所など、地域住民とのワークショップでファシリテーターとしての実績があります。今回の公民館設計にあたっては、建設準備委員会とともに、小学校からお年寄りまでが、設計に参加し、意見を述べます。また、今計画でも、今までの公民館設計で行ってきた小学生たちと記念作品を製作します。

B. 構造設計

建築設計と同じく、市内公民館の設計実績があり、また公共建築設計実績も多くあります。計画では、地震に起因する震害を避ける、災害時の避難場所としての役割づけを考えた公民館の設計にありたいです。熊本地震によって、見直しをという意見もある地域振興や建物の重要度係数等、構造計画について、市担当部署と協議を重ね、計画を行っていきます。

C. 設備設計

各地での公共建築の設計経験に加え、市内公民館の設計実績も持っています。今計画では、「福岡市公民館：老人いこいの家づくり」に準拠しつつ、空調機や換気設備に加え、太陽光、雨水利用や自然採光、通風などバリエーションも取り入れ、計画を進めていきます。

■特に重視する設計上の配慮事項

A. 周辺環境との関係について

計画地は、実質方面で計画地ですが、周辺には木造戸建て住宅が密集している地域であり、道路も幅員が狭いところが多い地域です。ここでは、そういった周辺環境の中、公民館建設を行うにあたり、**近隣に与える影響について**を、その影響を考慮した提案を行います。

1. 音(騒音)について

北側に2軒、西側に1軒、南側の4Mの道路を挟んで、4軒の木造住宅に面している敷地であるため、**騒音**が北側の音について、配慮が必要になります。計画では、北側に平屋の講堂、学習室を配置する。隣地境界線から3M程度距離を設けることで、開口部を少なくします。同時に、遮音壁や防音パネルを設置します。窓の開口部については、光割れ2割の壁を設置しますが、ここでは、防音壁の設置を行います。

2. 北側住宅におよぼす日影の影響について

北側、西側の住居が近接しているため、計画では、北側に平屋の講堂、学習室を計画し、建物高さをおさえるようにします。また、北側の隣地境界線から3M程度距離を設けることで、北側隣地への影響をできるだけ、少なくします。

3. 隣地のプライバシーに対して

北側住宅については現在、南側に大きな開口を持っており、そのため配慮が必要です。計画では、建物北側の開口を極力小さくすると同時に、必要な開口については、聖板ガラスや、フィルム張りのガラスを使用するなど、近隣のプライバシーに配慮します。

4. 密集地での災害(地震時の火災延焼等)に対して

北側、西側の隣地だけでなく、周辺は木造の家が多く、道路も狭いため、火災時の延焼に留意する必要があります。計画では、公民館からの延焼だけでなく、近隣、隣地からの延焼の対策として、境界には不燃材による防火壁を設ける提案を行います。

B. ライフサイクルとワークショップ

1. 設計

建築・構造・設備といった建築の専門的なチームをファシリテーターとする住民参加の設計ワークショップを行います。その過程を公民館設計により地域に配信し、参加者以外の人々の声も反映できるようにつなげます。

建築計画：全体を見直し、図面、模型、CGなどを使って、数々のたたき案を作成し、建設準備委員会に説明後、意見を集約し、まとめていきます。

設備計画：省エネを考慮した設備計画やコンセントやスイッチの位置について、カタログやアットレット図を使って、住民に委員会を通して、説明を行います。

※このワークショップで出てきた意見を各担当が集約し、設計に反映させていきます。

2. 建設

建設時には、建設の一部に参加できるように仕組みを考えます。計画では、みんなでのタイルの貼付けを行い、モニュメントの作成など、施設のトレへの参加を促します。ここでは、幼児から小学生、中学生、お年寄りが参加するため、みんなが完成できるように、給付を行う時には、ボランティアの学生の参加を募り、対応します。また、工事の目印には、児童会を行い、施設建設に係ることで、施設への愛着心を生みます。

3. 運用・管理

竣工後は、施設の長寿命化を考慮し、作成したマニュアルで管理を行います。このマニュアルは、施設を75年程度に渡り維持管理を行う必要があったため、利用者や管理自身においても加筆、更新できるようにします。10年、15年サイクルの機器の更新や防水など建物の改修時においても、新しい機器や使用材料のメンテナンス方法を更新、加筆し、次の建物の改修更新まで、利用者、管理者に伝えていきます。

4. 解体・処理・再生

現在は、リサイクル、リユースできない材料についても、数十年先の解体時には、可能であることも考えられます。ここでは、使用材料が記載されているマニュアルをもとに、行政やコンサルタントと共に解体ワークショップを行います。ワークショップでは、長期に渡って設計されたマニュアルをもとに、その時代のリユース材、リサイクル材を選定し、今後の公民館建設に役立てます。

(様式6)

「集まる」「学ぶ」「つなぐ」

飯倉中央公民館、老人いこいの家設計プロポーザル

■地域概要

飯倉中央公民館、早良区内でも北部の都市部に位置します。校区内は、高層住宅は少なく、2階建ての木造戸建て住宅が密集している住宅地です。校区の人口は、増加傾向にありますが、平成30年3月の資料では、65歳以上の人口割合が25.2%と早良区平均を上回っています。また、6歳未満の子供を持つ世帯割合も早良区全体の割合より2%程度少ない状況で、飯倉中央小学校の生徒数についても、314名と早良区内で、5番目に少ない小学校です。そういった状況の中、公民館主催事業では、「ひよこクラブ」や「友達ランド」や「シニア交流会」などが、盛況です。また、32のサークル活動も盛況です。和室を使用し、活発に行われています。計画では、こともお年寄りや小さく、楽しい施設であることもこのこと、若い世代の方たちにも安全、安心な施設づくりに、地域住民の活動拠点となる施設の提案を行います。

■テーマ ユニバーサルデザイン及び維持管理の容易さに配慮した提案

A. ユニバーサルデザインに配慮した提案

提案では、「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた公共建築整備のガイドライン」に準拠し、高齢者、障害者にとどまらず、全ての人が積極的に社会参加できる街づくりの推進と社会活動の支援に寄与することが目的です。そのことを念頭に、安全で、使いやすく、美しい施設を提案します。またガイドラインにある「ユニバーサルデザイン7原則」をもとに計画を行います。

- 誰もが公平に施設を利用できること
- 誰にとっても使用上の自由度の高い施設や設備であること
- 施設や設備は誰にでも使い方が簡単で分かりやすいこと
- 誰もが安全な情報効果的に伝わり、理解しやすいこと
- 誰にとっても安全なデザインであること
- 誰もが無理な姿勢をとることなく、少ない力で楽に使えること
- 利用しやすいスペースと大きさを確保すること

計画では、全室の広さは、「福岡市公民館：老人いこいの家設計準備」に準拠し、決定します。共用部であるロビーや中庭などについては、車いすでの移動が円滑に行われることを確保します。各室の厚も有効高800mm以上を確保し、引手も基本とします。

B. 維持管理の容易さに配慮した提案

公共建築物の長寿命化を考慮すると、75年程度の維持管理が必要になります。国土交通省による「平成17年建築物のライフサイクルコスト」によれば、建築、設備の一般的な更新年数や修繕周期が提示されています。ここでは、その長期にわたる施設のメンテナンス更新が、容易に行われるように、マニュアルの作成を行います。マニュアルには、仕上げや設備機器の更新時期、修繕時期について記載することで、施設管理者が行う維持管理を容易にし、施設を長寿命化させる仕組みを作ります。

- 建築家匠についての維持管理について
- 電気、機械設備についての維持管理について
- 意匠計画
- 構造計画
- 設備計画

1. 建築家匠についての維持管理について

75年の維持管理の期間、外部では、外壁の塗料や鋼製建具、屋上防水、シーリングなどの定期的な修繕が必要になります。「建築物のライフサイクルコスト」によれば、外壁塗料の修繕周期を8年、屋上防水の修繕周期を5年としています。ここでは、事後ではなく、そういった形の短期間の周期で行う予防保全型の維持管理を行うことで、建物の長寿命化を図ります。

2. 電気、機械設備についての維持管理について

-1) 電気設備：空調、換気設備、照明、ソーラー等の制御については、事務所として一括管理を行うことで、施設管理者の日常業務が円滑に行われるようにします。

-2) 給排水設備：地上設置型の薄型貯留槽を設置し、漏水を利用します。地下ピット利用に比べ、建設コストの低減に寄与するとともに、維持管理も容易になります。配管については、メンテナンスが容易で、リサイクル可能なステンレス管を推奨します。

-3) 空調換気設備：空調については、アクティブな一般的な空調機(EHP)に加え、次世代パワースタイルによる太陽熱利用といったパッシブなシステムも採用します。夏期は暖められた空気を夜間に蓄熱し、冬季は、天井ファンにより内部共用部に取り入れる計画とします。

3. 意匠計画

耐久性、耐風性を持った鉄筋コンクリート造とし、オープン構造フレームで計画を行います。外壁については、形式壁(押出型コンクリート版等)を採用することで、地震後の改修を鉄筋コンクリートの壁より容易にします。乾拭きによる汚れも、コスト削減につながります。また、拭きについては、拭きに対して拭きやすい素材を採用します。北側のスペースには、マホールドスタイルを設置し、施設内のトイレが使用できなくなったときのために対応します。

4. 構造計画

校区内には約2,460世帯で5,550人ほどが居住しています。災害時には、この地区は小学校と共に避難場所、生活の拠点となります。ここでは、災害時に問題となる避難場所の不備を解消できるように施設の整備を行います。

5. 設備計画

耐震性、耐風性を持った鉄筋コンクリート造とし、オープン構造フレームで計画を行います。外壁については、形式壁(押出型コンクリート版等)を採用することで、地震後の改修を鉄筋コンクリートの壁より容易にします。乾拭きによる汚れも、コスト削減につながります。また、拭きについては、拭きに対して拭きやすい素材を採用します。北側のスペースには、マホールドスタイルを設置し、施設内のトイレが使用できなくなったときのために対応します。



■中央消防署平尾出張所プロポーザル 当選/田中康裕：(株) キャディスと風建築工房

(様式5)

中央消防署平尾出張所移転改築工事基本設計プロポーザル

地域を守るシンボルとして

①業務の実施方針

- この敷地の特色や周辺環境、条件を読み取り、また、消防出張所庁舎が持つべき機能を十分に発揮できる建物の計画を行います。
- (1) 2方を交通量の多い幹線道路に面した敷地での計画
- (2) 3階建ての計画

計画は設計チームから一方通行ではなく、設計工程に合わせて、各部署と協議を行いながら進めていきます。ヒアリングシートや、車庫や室のカルテを作成し、各部署と情報を共有することで、円滑な計画の進行を行います。計画では、各部署の担当から成る「(仮)建設準備委員会」を庁内に構成し、設計チームと共同で、施設設計のとりまとめを行います。

- コスト管理：計画では、基礎工事の比較検討、大スパンの工法の比較検討等、工種ごとに考えられる材料や工法の比較検討を行います。設備においても、空調の熱源の比較検討、自然エネルギー利用の検討などを行い、コスト削減に努めます。
- 工程管理：新庁舎の使用開始時期を踏まえ、社会環境を考慮した適正な工事期間を提案し、施工者決定時には、施工者に、設計意図を十分に伝え、適正な工程表の作成に努めます。

②業務の取組体制

構成チームについては、各々が、建築の各分野において、プロフェッショナルであることが重要です。

統括する担当は、今回チームを統括する職掌担当と共に市内のプロポーザル選定による**公民館等の設計実績**もあり、経験も豊富です。ワークショップの経験もあるため、市民向けの見学会などの開催も可能です。

また設備担当は、**公民館の実績**と共に小学校など公共建築物の設計を多く経験しており、省エネや環境に対する取り組みについても、実際に設計経験も有しています。

また、今回の提案では、補修や縮小のサインなど、外部専門家の協力も得て、設計業務を進めていきます。

③設計チームの特徴

- 複合設計

3件の市内公民館の実績と共に、地域の集会所、民間の事務所や病院、また、公園内施設等、多様な用途の建築設計の実績があります。今回の消防出張所庁舎設計にあたっては、その経験を生かした計画の提案が可能です。また、工程の節目には、住民参加によるワークショップを行い、地域に密着した庁舎の計画を行います。

- 構造設計

建築設計と同じく、公民館の設計実績の豊富があり、公共建築物の設計実績も多くあります。計画では、昨今の地震や豪雨災害を踏まえ、災害時にこの地域の活動拠点施設となるべく、耐震性能の向上に努めます。また、見直しが必要という意見もある地域係数や、建物の重要度係数、構造計画について、市担当部署と協議を重ね、計画を進めます。

- 設備設計

各地での公共建築の設計計画に加え、警察署庁舎の設計実績もあります。今計画では、一般のアクティブな設備機器に加え、太陽光、雨水利用や自然光、通風など、パッシブな技術も取り入れた計画を進めていきます。

④特に重視する配慮事項

A. 地域に開かれた消防出張所庁舎

地域住民との交流が図れるよう計画とします。園児や小学生のための見学コースをつくることや、エントランスロビーにて、防災に関する情報や展示を行う場所を提案します。また、日中の屋内外での訓練活動が市民に発信できるように計画を行います。訓練を含めた庁舎が地域住民の防災意識を高める情報を発信する場所となります。二つの、幅員が広い、幹線道路の角地にある敷地は、周辺からの視認性もよく、24時間体制のこの施設は、地域のランドマークとなり、周辺地域の安心、安全な環境をつくります。

1F 2F 3F

■ 防災情報掲載コーナー（エントランスホール）および見学コース

B. 職員、来訪者に優しい施設（ユニバーサルデザイン）

計画では、庁舎で働く職員や、庁舎への来訪者がストレスなく円滑に移動や利用ができる施設の計画を行います。バリアフリー法、福祉のまちづくり条例に加え、「ユニバーサルデザインの考え方を導入した公共建築整備のガイドライン」を踏襲することで、障害者や高齢者の負担を軽減します。

1. 誰もが公平に施設を利用できること
2. 誰にとっても使用上の自由度の高い施設や設備であること
3. 施設や設備は誰にでも使い方が簡単で分かりやすいこと
4. 誰にも必要な情報が効果的に伝わり、理解しやすいこと
5. 誰にとっても安全なデザインであること
6. 誰もが無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使えること
7. 利用しやすいスペースと大きさを確保すること

共用部であるホールや廊下などについては、車いすでの移動が円滑に行われる広さを確保します。

C. 施設環境の安全性について

施設は、健康で安全な室内環境を実現します。シックハウス法を最低の基準と考え、環境に起因する疾患（アレルギー、シックハウス症候群、化学物質過敏症などの疾患）を持つ人たちが、安心して活動できるような計画を行います。現在、ホルムアルデヒド、VOC等の物質の濃度を測定し、安全性の確認は行われていますが、ここでは、今までの既存施設の仕様を検証し、これからの拠点施設が持つべき仕様の検討を行います。

D. ライフサイクルとワークショップ

1. 設計

建築・構造・設備といった建築の専門的なチームをファシリテーターとする「(仮)建設準備委員会」以外の**市民参加の設計ワークショップ**を行います。またその様子を**設計便り**として本庁等に配信し、参加者以外の働く声も反映できるようにいたします。全体を見直し、図面、模型、CIなどを併せて、数案のたたき台を作成し、「(仮)建設準備委員会」にて、意見を集約し、まとめていきます。

2. 建設

建設時においては、建設の一部に参加できるような仕組みを考えます。計画では、地域に、モニタリング等の作成など、施設のコトへの参加を促します。

また、工事の節目には、見学会を行い、施設建設に係ることで、庁舎への愛着心を生み出します。

3. 運用・管理

竣工後は、施設の長寿命化を考慮し、作成したマニュアルで管理を行います。このマニュアルは、施設を70年程度に渡り維持管理を行う必要があるため、利用者や、管理者自身においても**加筆・更新**できるようにします。10年、15年サイクルの機器の更新や防水など建物の改修時においても、新しい機器や使用材料のメンテナンス方法を修正、加筆し、次回の建物更新まで、利用者、管理者に伝えていきます。

4. 解体・処理・再生

現在は、リサイクル、リユースできない材料についても、数十倍先の解体時には、可能であることも考えられます。ここでは、使用材料が記載されているマニュアルをもとに、行政やコンサルタントと共に長期に渡って改訂されたマニュアルをもとに、その時代のリユース材、リサイクル材を調達し、今後の施設建設に役立てます。

地域を守るシンボルとして

中央消防署平尾出張所移転改築工事基本設計プロポーザル

■計画の基本方針

敷地は、西鉄平尾駅に近い、高層ビルと築地団地が交差する角にあります。浄水場にある現在の出張所と比べると、消防隊、救急車などの緊急出動には遅れた敷地であると思われれます。今計画では、最適な敷地利用計画と、日常の消防業務の特殊性を考慮した施設計画、また、大規模災害時には、十分な防災機能が発揮できる消防庁舎計画を行います。地域住民に対しても、防災意識の向上を図るため、防災情報発信の機能を施設内外に計画するとともに、災害ができる計画を行うなど、地域に開かれた消防庁舎を提案します。



■テーマ1 消防業務の特殊性及び計画地の状況を考慮した施設計画、動線計画

■1階平面、配置：

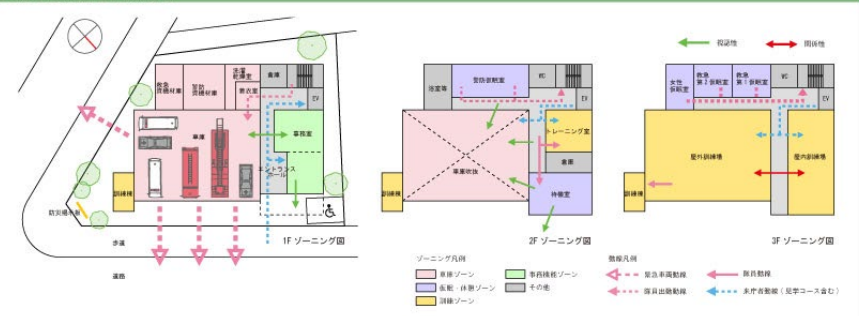
幹線道路に2方が面しているため、計画では、どちらの道路にも緊急車両が出動できる位置に車庫を配置します。また北側にエントランスや、事務所を計画することで、歩行者動線と車両動線を明確に分離します。平面には、車庫に面して、資機材庫や着衣室を配置することで、消防活動が容易になる計画とし、事務所と車庫については、お互いから視認できる提案を行います。

■2階平面：

2階には、待機室、トレーニング室、警防仮眠室、浴室を配置します。車庫内から直接出動するため、待機室からの視認、及び、地下からの移動の確保が可能です。仮眠室からの出動動線もシンプルな計画とします。

■3階平面：

3階には、居内訓練場、救急仮眠室、女性仮眠室を配置します。車庫の階層を居内訓練場として活用することで、訓練場と居内外の訓練場がつながり、日常の訓練が適切に行えるような環境が整えられます。



地域を守るシンボルとして

中央消防署平尾出張所移転改築工事基本設計プロポーザル

■テーマ2 防災拠点となる庁舎としての構造及び設備計画

A. 防災拠点となる建築の提案

1. 建築計画

計画では、地震、水害など、多様な災害に的確な対応ができる施設を目指します。設備機器スペースや発電機室などは、2階、3階に配置し、災害時にも機能が維持できるようにします。また、災害時の対策室は、2階の待機室に設置できるように、待機室にも非常電源や情報端末を計画します。1階のエントランスホールは、災害時には、地域の災害情報が確認できるスペースも確保します。



2. 構造計画

耐震性、耐火性を持った鉄筋コンクリート造とし、オープンな構造フレームで計画を行います。外壁については、一部に乾式壁（押出成型セメント板等）を採用することで、地震後の改修を鉄筋コンクリートの壁よりも容易にします。乾式壁にすることで、基礎への負担を軽減し、コスト減にもつながります。また、柱については、揺れに対して耐打りがある鋼管柱、または、PC柱と上部をSD柱とした工法を採用します。

3. 設備計画

災害時に拠点施設となるため、計画では、災害後1週間の庁舎機能が可能な計画とします。
 ■電力：公共インフラの供給まで、自家発電機、蓄電池、及び太陽光発電により、電力を確保します。
 ■通信：二系網の公共インフラによる、通信設備の二重化を行います。
 ■上下：日常の排水と公共、雨水をろ過することで、生活用水として利用します。
 ■汚水：公共用水、敷地内の排水管が使用不可となった場合は、敷地内に設置した便槽を利用し、仕切りを閉じ、汲取りに対応します。公共下水、敷地内排水管を使用できる場合は、仕切りに開放状態にし、排水管と接続します。マンホールトイレの場合、接続する排水管が破損している場合、使用不可となるため、一時的に汲取り方式に対応できる貯留方式を採用します。

B. 維持管理の容易さに配慮した提案

公共建築物の長寿命化を考慮すると、75年程度の維持管理が必要になります。国土交通省による「平成17年建築業物のライフサイクルコスト」によれば、建築、設備の一般的な更新年数や修繕周期が提示されています。ここでは、その数値を基礎としたメンテナンスや更新が、容易に行われるように、マニュアルの作成を行います。マニュアルには、仕上がりリスト、日常の清掃やメンテナンスの方法や仕上げや設備機器の更新時期、修繕時期について記述することで、施設管理者が行う維持管理を容易にし、施設を長寿命化させる仕組みを作ります。

1. 建築材料、仕上の長寿命化と維持管理について

70年の維持管理の間、外壁は、外壁の塗装や鋼製部、屋上防水、シーリングなどの定期的な修繕が必要になってきます。「建築物のライフサイクルコスト」によれば、外壁塗装の修繕周期を8年、屋上アスファルト露出防水を修繕周期を5年としています。ここでは、不具合発生してから、修繕を行う事後保全型の維持管理ではなく、短期間の周期で計画的に改修を行う予防保全型の維持管理を行うことで、建物の長寿命化を図ります。

2. 電気、機械設備の提案及び長寿命化と維持管理について

■電気設備：空調、換気設備、照明、ソーラー等の制御については、事務所にて一括管理を行うことで、施設管理者の日常業務が円滑に行われるようにします。また、電気設備機器についても予防保全型の維持管理を行うことで、消防庁舎機能が一時的にでも停止することがないように計画します。たとえば、標準的なLEDランプ交換を10年毎、蓄電池交換を5年毎に行うなど、計画的に実施することで、品質の安定化、保全量の平準化、設備の寿命化などが図られ、ライフサイクルコストの削減に寄与します。

■給排水設備

災害時における拠点施設として利用される施設であることから、ライフラインの復旧までの一時的な飲料水、及びトイレの排水用の水については、雨水をピットに確保し、井水とともに高度ろ過することで、対応します。また配管については、維持管理が容易で、リサイクル可能なステンレス管の採用など施設のライフサイクルに適した材料の選定を行います。また予防保全型の管理とし、タンク内の腐蝕やバルブの交換、10年毎、設備や社会費のメンテナンス等の交換を3年毎など、各工種や使用材料ごとに計画的に修繕や部品交換を行うことで、機器の長寿命化を図ります。

■空調換気設備

庁舎の各室については、使用の時間帯も異なるため、ゾーン毎の個別空調を計画します。ここでは、アクティブな一般的な空調機（EHP）に加え、自然換気や自然換気、太陽熱利用といったパッシブなシステムも計画します。空調機器や換気機器についても、予防保全型の管理とし、品質の安定や、設備機器の寿命化を図ります。たとえば、マルチパッケージ型空調機については、時間計量による維持管理を行い、各部品を3年（フィルター交換）から12年（送風機交換）の高耐久で、修繕を行うことを計画します。

■テーマ3 ライフサイクルコストの削減

A. ライフサイクルコスト削減方法について

全面設計から解体再利用までのライフサイクルの中、その時々々の項目について、コスト削減可能な計画を行います。

1. 企画・設計

企画設計では、工事、運用、修繕、解体再利用といったライフサイクルのコストが削減できる設計を行います。シンプルな平面計画と計画に適した構造工法の選択、また維持管理が容易な建築材料や設備機器の選定、自然エネルギーの利用などを計画し、この段階で、ライフサイクルコストの算出を行います。

2. 建設コスト、運用コストの削減

■建物の軽量化

耐震性、耐火性を持った鉄筋コンクリート造とし、オープンな構造フレームで計画を行います。外壁については、一部に乾式壁（押出成型セメント板等）を採用することで、建物も軽量となり、基礎への負担も軽減し、建設コスト減につながります。

■適切な建築材料や仕上の選定

汎用性が高く、更新しやすい材料に加え、消防庁舎という用途上、ハードな使用が見込まれるため、耐久性、防汚性を持った仕上材料を選定します。それにより、修繕や清掃にかかる維持管理コスト削減を図ります。

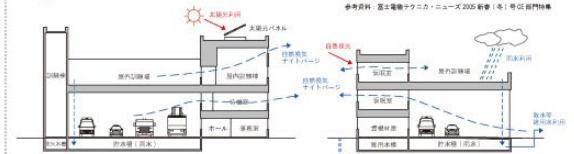
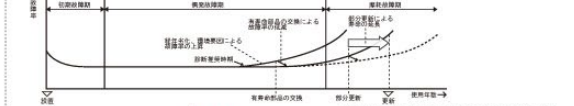
■設備機器への寿命低減

ガラスは、高遮熱、高断熱性能を持ったLow-E複層ガラスを採用することで、空調機器の負荷低減を図ります。また、照明器具は、ランプ寿命が長いLED照明を採用し、維持管理コストの削減に努めます。

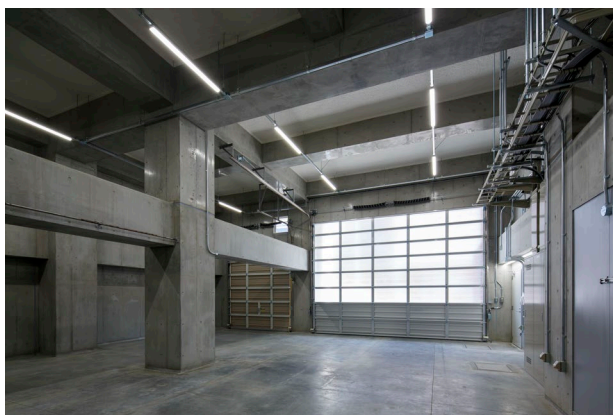
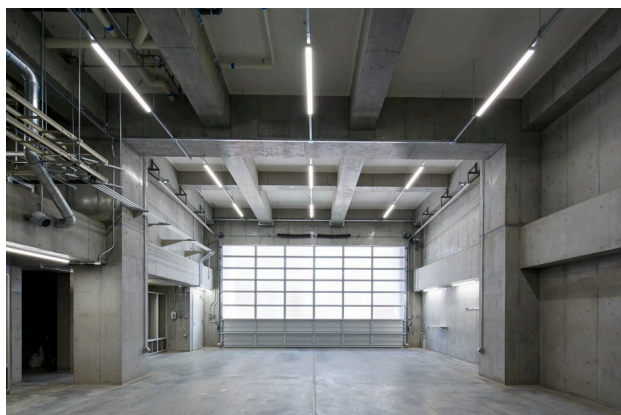
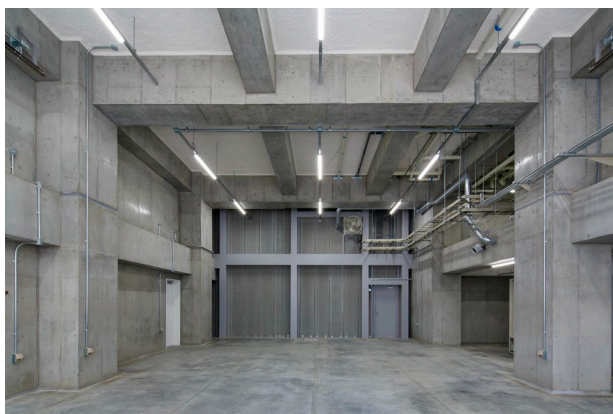
■自然エネルギーの利用

計画では、自然採光、自然換気、太陽光発電、雨水利用など、自然エネルギーの利用を積極的に採用します。

■ライフサイクルコスト削減効果の比較



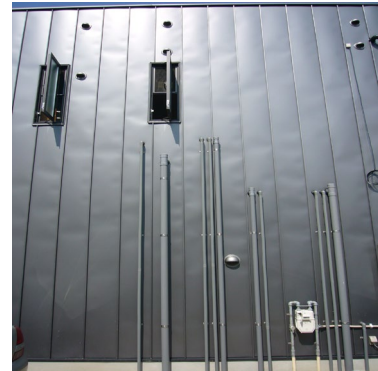
※ナイトバード：夜間の冷気を取り入れ昼間の空調負荷の低減を行います



雑誌掲載：高木ひろみ乳腺レディースクリニック
なかの内科・消化器科 すみた医院
九州石油ガス本社

医院建築 20
建築知識 1999. 7 建築採集記
建築グルメマップ 2 九州・沖縄を歩こう！

■■住宅
■N邸



福岡市内に建てた、3人家族（若夫婦と子供一人）のための住宅。

シックハウス症候群という言葉が一般的になり、シックハウス法が施行されて久しい。建築現場において、ホルムアルデヒド、VOC等揮発性物質が規制されてきた。法の規制を受ける材料もほとんどがF☆☆☆☆。

今回違ったのは、“CS”という聞きなれない言葉。

“化学物質過敏症：chemical sensitivities”

極少量の化学物質でも過敏に反応してしまい、いろいろな症状を起こしてしまう。また花粉症のように突然発症する場合もあるという。

1. 自然光、自然通風の確保

敷地が住宅地にあり、将来的に建物に囲まれる可能性を考慮して、日当たりが良い2階に日常の生活空間を設け、1階は玄関とガレージ・予備の部屋のみとする。2階は中廊下型にして各室に窓を設け、通風の確保に努める。

2. 体質が拒否する化学物質を含む材料は、原則使用しない。

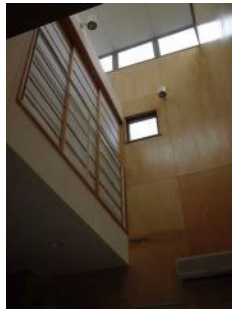
外装・内装材の「製品安全データシート」をメーカーから取り寄せ、製造方法についても直接問い合わせて、どういった物質でその材料が構成されているか等について調べる。構造材・仕上げ材となる木材は、産地と流通経路を明確にし、防腐剤が使用されていないことを確認する。

3. 使用する材料の種類を少なくし、施工方法も単純化する。

仕上の種類を減らし、化学物質の混在を低減する。室内で必要なコーキング材・接着剤の使用箇所をなるべく減らすよう、施工方法を考慮する。設備配管を外壁沿いに立ち上げ、内部の継手箇所を減らして、接着剤の使用箇所を抑えるというようなことである。

“健康な”という当たり前だった“建築”が、これからはそれ以上の“安心できる安全な”という“建築”にならなければと感じ、これからの設計を思う仕事であった。

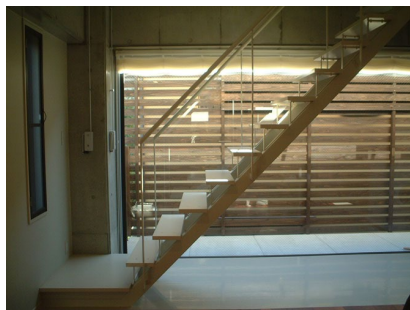
■ K邸



■ U邸



■ R邸



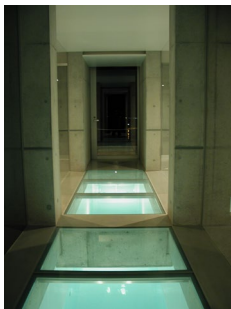
■ F邸



■ 蝸牛庵



■ 藤庵



■ I 邸



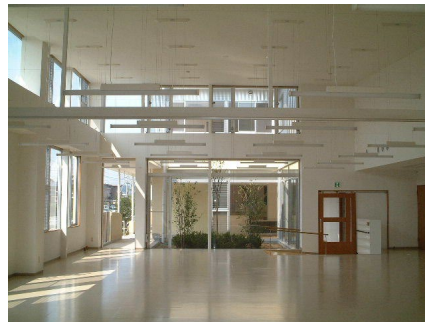
■ K邸



■■ 医院、福祉施設
■ N内科・消化器科医院



■ M整形外科



■ M小児科



■ A医院



■ T乳腺レディースクリニック

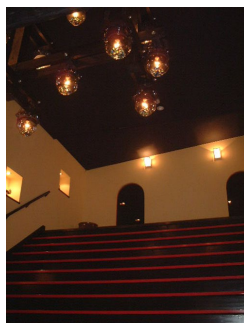


■ グループホーム 青い鳥



■■ 事務所、店舗、その他

■ R庵



■ Kガス(株)社屋



■ 1998 筑後市 かすり市会場



布と光と... / 田中 康裕

■ 2000～ 福岡市デザインリーグ デザインキャラバン参加
小学生とのものづくり



1985～1993（株式会社 環・設計工房在職時担当作品）

名称 天寿堂医院
用途 医院併用住宅

名称 シーサイドももち BS-14.15
用途 専用住宅



名称 荻町ひなための里
用途 飲食店



名称 大山町やすらぎの郷周辺整備計画
重要文化財である旧矢羽田邸を中心とした建築群及び外構計画



名称 湯布院 玉の湯旅館
離れの客室で構成された旅館



1993～1996 (有限会社 巧庄設計 在職時担当作品)

名称 津留邸
用途 専用住宅



名称 Pom. pa. dour
用途 店舗 (美容室)



名称 大牟田市北別館
用途 市庁舎



名称 大牟田北高校セミナーハウス
用途 学校

協力：(株)環・設計工房



名称 西原邸
用途 専用住宅



名称 敬和苑
用途 特別養護老人ホーム他